

## 市民推進会議平成 26 年度報告書（案） 【抜粋】

## 目次（案）

- 1 はじめに
- 2 横浜みどりアップ計画と市民推進会議
  - (1) 横浜みどりアップ計画
  - (2) 横浜みどりアップ計画市民推進会議
- 3 市民推進会議平成 26 年度の活動実績
  - (1) 市民推進会議(全体会議)、施策別専門部会
  - (2) 現地調査
  - (3) みどりアップ計画やみどり税についての情報の提供
- 4 施策ごとの評価、提案  
(計画全体への意見、全般的な評価・提案の概要)
  - (1) 取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む
    - 施策1 樹林地の確実な保全の推進
    - 施策2 良好な森を育成する取組の推進
    - 施策3 森と市民とをつなげる取組の推進
  - (2) 取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる
    - 施策1 農に親しむ取組の推進
    - 施策2 地産地消の推進
  - (3) 取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる
    - 施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進
    - 施策2 緑を楽しむ市民の盛り上がりを醸成する取組の推進
  - (4) 効果的な広報
    - 市民の理解を広げる広報の展開
- 5 市民推進会議広報誌「みどりアップQ」(平成 26 年度発行分)
- 6 市民推進会議委員名簿



## 4 施策ごとの評価、提案

市民推進会議では、みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む（「森を育む）」、「市民が身近に農を感じる場をつくる（「農を感じる）」、「市民が実感できる緑をつくる（「緑をつくる）」の施策と、みどりアップ計画を市民の皆さんに周知するための「広報・PR」について、現地調査で市民や活動団体などからいただいた意見等を踏まえて、評価・検証をおこないました。

なお、みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた用途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さんが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・検証をおこないました。

### ◆計画の体系◆

#### 取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

施策1 樹林地の確実な保全の推進	事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	●
施策2 良好な森を育成する取組の推進	事業② 生物多様性・安全性に配慮した森づくり	●
	事業③ 森を育む人材の育成	●
施策3 森と市民とをつなげる取組の推進	事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり	●

#### 取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

施策1 農に親しむ取組の推進	事業① 良好な農景観の保全	●
	事業② 農とふれあう場づくり	●
施策2 地産地消の推進	事業③ 身近に感じる地産地消の推進	
	事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開	

#### 取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる

施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進	事業① 民有地での緑の創出	●
	事業② 公共施設・公有地での緑の創出	●
施策2 緑を楽しむ市民の盛り上げを醸成する取組の推進	事業③ 市民協働による緑のまちづくり	●
	事業④ 子どもを育む空間での緑の創出	●
	事業⑤ 緑や花による魅力・賑わいの創出	●

#### 効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開	
--------------------	--

●：横浜みどり税を充当している事業・取組

◆計画全体への意見 ・ 全般的な評価の概要◆

.....  
.....  
.....

## (2) 取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

景観や生物多様性の保全など農地が持つ環境面での役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

### 施策1 農に親しむ取組の推進

事業	事業の概要	進捗状況（1月末時点） 【5か年の目標】
良好な農景観の保全	集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観など、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきた農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家・NPO法人などにより農地を保全する取組を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>水田承認予定面積：121.3ha 【125ha】</li> <li>共同利用設備の整備：2件 【25件】</li> <li>長期貸付開始農地：4.1ha 【80ha】</li> </ul>
農とふれあう場づくり	食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を進めるとともに、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里を中心に、市民が農とふれあう機会を提供します。また、農家と地域住民が協働で地域の農環境を保全する取組など、市民による主体的な活動を支援します。これらの取組の情報発信を充実させることにより、市民の利用や参加につなげます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫体験農園の開設支援：1.48ha 【12.5ha】</li> <li>市民農園の開設支援：1.6ha 【6.0ha】</li> <li>農園付公園の整備：整備中 3箇所（1.4ha）【7.3ha】</li> <li>ふるさと村収穫体験等：13回、恵みの里農体験教室等：82回 【500回】</li> <li>あぐりツアー実施：2回 【20回】</li> </ul>



水田保全承認事業により守られている水田  
(戸塚区)



農園付公園(港北区「師岡町梅の丘公園」)

◆施策1についての評価・提案

- ・水田の保全の取組が目標に達していることは評価できますが、全体の数値のみでなく、この取組により不耕作の田んぼが減っているなどの地域の実績についても、伝わるとなお良いと思われれます。
- ・代々受け継いだ農地を守りたいという、地権者の想いに応えられるような、支援策が必要です。
- ・水田の保全は地権者の意思があって成り立つものですが、実際の耕作者も支援される仕組みの充実についても期待します。

.....  
.....

## 施策2 地産地消の推進

事業	事業の概要	進捗状況（1月末時点） 【5か年の目標】
身近に感じる地産地消の推進事業	地域でとれた農産物などを販売する直売所の整備等の支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなど、地産地消の取組を拡大します。さらに、地産地消に関する情報の発信など、市民が地産地消を身近に感じるための取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直売所等の支援：2件 【52件】</li> <li>・青空市運営支援：4か所 【25件】</li> </ul>
市民や企業と連携した地産地消の展開事業	市民の「食」と、農地や農産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図るとともに、農と市民・企業等が連携する取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はまふうどコンシェルジュの活動支援：11件 【100件】</li> <li>・企業等との連携：5件 【50件】</li> </ul>



直売所(メルカートかながわ)



東京ガス(株)との連携による「地産・地消・食育」をテーマとした料理教室

### ◆施策2についての評価・提案

- ・地産地消が実践できることは横浜市の大きな魅力の一つと考えます。
- ・直売所は平日の昼間しか営業していない場所も多いが、若い人や子供にも横浜の農畜産物の良さを知ってもらい、地産地消を実践してもらえるような工夫が必要です。

.....

.....

.....

◆取組の柱2「市民が身近に農を感じる場をつくる」全体についての評価・提案

.....

.....

.....

.....

「農を感じる施策を検討する部会」部会長コメント

(300～500 字程度)